

## 令和5年度 県立美術館協議会 会議録

### 1 開催日時及び場所

日時：令和5年11月22日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで

場所：県立美術館3階会議室

### 2 出席者

委員7名、事務局等11名 計18名

### 3 議題

- ① 令和4年度事業実施結果及び令和5年度事業について
- ② 宮崎県立美術館運営ビジョンに基づく評価について

### 4 質疑応答及び協議

事務局から各議題について説明等を行った後、次のような質疑応答、協議が行われた。

#### 【運営ビジョン評価の自己評価の内容について】

##### (1) 収集・保存について

###### ○委員

美術品等取得基金の有効活用が、今後の大きな課題だと思う。作品の収集活動は美術館活動の根幹である。円安もあり厳しい面もあると思うが今後とも一層進めていただきたい。

評価票の項目と、年報の運営ビジョンを照らし合わせると、評価表にはその項目がないものが何か所かあるが、何か意図があるのか。

###### ○事務局

評価票については、年間の目標を立ててやらなければいけないような項目を挙げている。若干整理をしているところがあり、すべてが同じではない。

##### (2) 調査研究について

###### ○委員

ネットやホームページ上だけでの発表ではなくて、実際に紀要を発行したというのは、大変な努力だったと思う。冊子体で様々な施設に収められることも大事なことである。今後この方向性は継続してもらいたい。

③「作品解説等の執筆」の課題として「調査研究のための時間確保が長期的な課題である」とあるが、今後の見通しとしてどう考えているのか。また、担当は、美術館の職員なのか、どの程度の人数や時間で作成しているのか。

###### ○事務局

研究論文の執筆は、美術館職員である学芸員が行っている。学芸員の業務は多岐にわたっており、日々の業務の中で研究時間の確保が非常に難しい。その中でも、例えば、一週間に研究時間を2時間確保するといったことを計画的に各担当者が取り組んでいる。

### (3) 展示について

#### ○委員

コレクション展に関しては、人数も前年度を上回り、子供だけではなく愛好者にとっても面白い展示になっていた。メンテナンス工事や新型コロナ対応もやってきた上で、このC評価は厳し過ぎる印象を受けた。

白髪一雄展は、県立美術館でなければできないような展覧会だった。作家の代表的な作品紹介にとどまらず、本県との関係も入れたのは非常に良かった。瑛九とデモクラートについて深めていく上でも重要であり、人数だけではなく内容も評価されてもよい。

#### ○事務局

展覧会については、人数だけではなく、県立美術館で開催する意味をしっかりとった展覧会を開催したいと考えている。

#### ○委員

特別展に来る観覧者をコレクション展へ誘導できれば、コレクション展も観覧者が増えるのではないかと。コレクション展は年に数回展示替えされているが、県民には伝わっていないのではないかと。広報や誘いの在り方を工夫ができればと思う。

旅する美術館は、美術館から離れた市町村に住む子供たちに本物とふれあう機会を提供するよい企画である。もっと増やすことはできないのか。また、対象の地域はどこを設定しているのか。

#### ○事務局

旅する美術館の開催増については、予算の関係もあり厳しい。

対象地域は、県内を北部、南部、中部の3か所に区切り、万遍なく開催している。様々な事業で県内を回っており、ほぼすべての市町村に行っている。

#### ○委員

旅する美術館がきっかけとなり、子どもたちの作品ももっとみんなに見てもらおうと「街なかギャラリー」という新しい活動が私たちの町で始まった。とてもよい企画だと思う。

### (4) 教育普及について

#### ○委員

自分も講座を受けたくて申し込んでいるが、なかなか受講できないくらい非常に人気が高い。まだまだ希望者が大勢いるかと思うので、その点も考慮していただきたい。野外の彫刻付近で読み聞かせ等、美術と本や、絵本と物語をつなぐといった活動ができると、公園利用者も気軽に美術を楽しむ時間ができるのではないだろうか。

#### ○事務局

読み聞かせ等、美術と本等、他のものをつなぐようなイベント等の開催や、教室・講座の募集増員については次年度以降の業務検討の中で参考にさせていただきたい。

#### ○委員

教育普及・施設利用等の利用者数について、コロナ禍前の平成30年度と比べてまだまだ及ばない。どのような理由があるのか。

○事務局

コロナ禍においては、不特定多数の人が触るようなものを提供できないため、大勢が参加できる自由参加型のワークショップ等が開催できなくなったのが大きな要因である。

○委員

アートシアター及び映像ブースは、当時は最新ではあっても機材が古くなってくると活用ができないということだと思う。この施設を今後どうするかも含めての評価が議論に繋がってほしいと思う。

(5) 広報・発信について

○委員

昨年度もだが、今年度もSNSの発信がすごくよい。特別展での団体予約状況を知らせることで、観覧者の利便性に供するなど、SNSならではの活用が進んでいる。

(6) 連携・参画について

○委員

旅する美術教室は、県内に小・中学校だけで400校近くあるので、もう少し開催を増やせるとありがたい。

○事務局

事業を整理した際、旅する美術館を行う近隣の学校へ呼びかける形で実施しているため、開催件数に増減が発生している。今後もより多くの小中高等学校に働きかけていきたい。

(7) 人材育成について

○委員

博物館実習について、博物館施行規則改変で館演実習と学内実習が義務付けられたため、学芸員資格から撤退した大学も多く、受入件数に影響が出ていると考える。見直しも進んでおり、今後、実習は多くなってくると思う。

(8) 管理・運営について

○委員

自衛消防訓練を行わなかったとある。マニュアル等の整備も必要とあるが、今後どのように対応するのか。

○事務局

4年度に自衛消防訓練ができなかったもので、5年度は早い段階で実施できるよう計画し、5月に訓練を実施した。マニュアルも策定し、各監視員に説明も交えて手交した。

【令和4年度実績に係る宮崎県立美術館運営状況評価】（委員総意による外部評価）

- (1) 収集・保存 . . . A
- (2) 調査研究 . . . A
- (3) 展示 . . . B
- (4) 教育普及 . . . B
- (5) 広報・発信 . . . B
- (6) 連携・参画 . . . B
- (7) 人材育成 . . . B
- (8) 管理・運営 . . . C

## 【その他】

### ○委員

若者の来場を促すために若者たちが行きたいなと思う企画や写真映えスポットがあるとよいのではないかと。ペア割等、入場料にも工夫があってもいいと思う。

大宮高校勤務時に、当時の美術科教諭が授業で県立美術館に生徒を連れてきていた記憶がある。今でもやっているのか。

### ○事務局

特別展に近隣の高校生を授業で連れてきたり、今日も小学生が150人ぐらい来館した。そういう利用が増えると嬉しい。

### ○委員

全国の高等学校総合文化祭に出品された県からの代表作品を一堂に集める企画があると関係者が来やすくなる。資源に限界はあるが、使える資源はもっと活用してもいいと思う。

県民驚くような展覧会の計画を期待している。

私は一番最初から協議会委員を務めているが、当時は色々なこと協議会において即決で結論を出して活発だった。委員の意見も聞いて、県民が奮い立つような企画展をお願いしたい。

また、小中高等学校の初任者研修を県立美術館内で行ってほしい。研修参加者が、県立美術館について学んで学校に持って帰ると子供たちに伝わると思う。

### ○事務局

温かい御意見をいただき心強く思う。職員と意見を交わし議論しながらいいものを作り上げていきたいと考えている。開館30周年に向けて見直す必要がある部分も出てくると思うが、委員・職員と一緒に、いい美術館を作り上げていきたい。各委員のご指導をよろしくお願ひしたい。

## 【協議、意見交換等】

### ○委員

県立美術館コレクションが非常に充実してきている。特にシュルレアリスムについては、世界的なものも含むコレクションになっている。企画的な展覧会だけではなく、情報の発信を進めていただきたい。

喫茶室やショップといった付帯施設との連携について、運営ビジョンには、多様なニーズに応じてとか、質の高いサービスとか、いろいろ書いてある。若者を呼び込むという意味でも、今後の展望について聞きたい。

### ○事務局

ショップや喫茶の付帯施設については、それぞれの運営団体のやり方で運営している。ショップで県立美術館所蔵品のクリアファイル等オリジナルグッズを作製するなど連携を取っているが、十分でない部分がある。可能な限り来館者のニーズに応じた取組を進めていきたい。